

学 校 経 営 計 画 (4月)				評価 (3月)	
学校運営方針		教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、心身ともに逞しく、豊かな人間性と創造性を備え、国家の繁栄と人類の平和に寄与する生徒を育成する。			A
昨年度の成果と課題		今年度重点目標	具体的目標		
<p>教育活動全体を通して嘉徳高生としての自覚を持たせ、人としての「気高さ」を有する生徒の育成に向けた指導を充実させることができた。</p> <p>生徒の実態に即した授業改善を図り、第一進路希望実現に向けた学力の向上を図る。</p> <p>歴史と伝統を踏まえ、中高一貫教育校としての新しい学校づくりに継続して取り組み、地域の期待に応える教育活動を実践していく。</p>		<p>1 嘉徳高生としての強い自覚と誇りを持ち、人間としての「気高さ」を重んじる生徒を育成する。</p> <p>2 文武両道の精神を重んじ、豊かな情操とともに、逞しく生きるための知力・体力・精神力を備えた生徒を育成する。</p> <p>3 真理と正義を愛し、生命あるものを尊び、「思いやりの心や共に生きる心」と「人権」を尊重する生徒を育成する。</p> <p>4 日本文化と伝統を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、社会の発展に貢献せんとする「志」のある生徒を育成する。</p> <p>5 高い目標を掲げて粘り強く努力し、将来の地域や日本を担う、強いリーダーシップを持つ生徒を育成する。</p> <p>6 広い視野を持ち、国際社会で信頼されるために必要なコミュニケーション能力や異文化を理解する態度を備えた生徒を育成する。また、学ぶ意欲や自尊感情、向上心や逆境に立ち向かう力などの人格的資質を育成する方策として「鍛ほめ嘉徳メソッド」を推進する。</p>	<p>1 すべての教育活動の中で人間としての「気高さ」を追求する指導を行う。</p> <p>2 生徒の意欲を引き出す丁寧な指導を行い、生徒の進路希望を実現させ、地域の信頼に応える。</p> <p>3 様々な生徒の個性や能力を伸ばし、学力のみならず、部活動や行事等の活性化を図る。</p> <p>4 新たに始まる『嘉徳ドリームコンパス』を活用し、生徒が夢をもって学習に取り組むための事業を推進する。</p> <p>5 中高一貫教育校としての教育活動を充実させ、地域の教育に対する期待に応える。</p> <p>6 様々な教育場面で、「鍛える」ことと「褒める」ことのバランスを保ちながら生徒の可能性を伸ばすようにする。</p>		
各 部		今年度重点目標			
1 教務部		豊かな創造性と個性に富み、積極的に自己実現を目指し、あらゆる機会をとらえ「学び続ける意欲」と「粘り強さ」を備えた「衝天の意気」を有する生徒を育成する。			
2 生徒指導部		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念や豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊ぶ等の道徳性を身に付け、人間としての「気高さ」を有する生徒を育成する。			
3 進路指導部		真理と正義を愛し、常に高い目標を掲げて、何事にも真摯に取り組む姿勢と確かな学力を身に付けるとともに、広い視野と行動力を持ち、社会や地域の発展に貢献せんとする「志」ある生徒を育成する。			
4 研修部		教師の教科指導力や生徒指導力等を高め、PTAや同窓会を中心とした地域の教育力を活用し、人間としての「気高さ」を追求するとともに、嘉徳高生としての気質と確かな学力を兼ね備えた生徒を育成する。			
	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	教務課	1 生徒の第一進路希望実現に向けて、学習指導要領に対応した教育課程・授業・家庭学習のあり方を研究する。	1 生徒の第一進路希望実現に向けた学習活動をさらに充実させるため、学習指導要領に対応した効果的な教育課程を研究する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 迅速かつ正確な成績処理に向けて、日程の検討、調査書・通知表までリンクした成績処理ソフトの導入を要望したい。生徒の学習状況へのフィードバックとして、信頼ある資料を提供する。 生徒に質の高い授業を提供するために、生徒の実態を把握するだけでなく、教師がさらに創意工夫し、生徒が自主的・主体的に学びに向かう方策を考える。
		2 生徒の自主的な学習習慣の確立および教員の教科指導力の向上を図り、生徒の学力を向上させる。	2 自主的な学習習慣の確立に向け、定期的に学習時間調査を実施し、1日平均3時間以上の家庭学習時間を達成する。	B	
		3 中高が相互のカリキュラムを認識し、6年間を見通した教科指導の内容と教授法を研究する。	3 高校と中学で教科指導の内容を共有し、それぞれの教授内容が有機的に結合するように定期的に協議する。	B	
			4 教育課程全般、さらに学校設定教科・科目の評価・検証を行い、今後の方向性と方策を考える。	A	
	図書課	1 生徒の読書意欲を高め、読書する習慣を身につけさせ、読書を通じて広い世界を学ぶ心と豊かな想像力をはぐくみ、自ら学ぶ力を育成する。	1 図書館オリエンテーションを実施し、図書館を利用しやすい雰囲気を作り、読書意欲を喚起する。	A	
		2 芸術鑑賞を設定し、優れた芸術に触れ、芸術への興味関心を深めさせるとともに、豊かな人間性を形成する一助とする。	2 朝読書の意義を理解させ、静かに集中して読書をする習慣をつけさせる。	A	
			3 芸術鑑賞を通して本物の芸術に触れる機会を与え、芸術に対する理解を涵養する。	A	
			4 保存用の資料収集を継続し、管理の仕方を徹底する。	B	

	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
生徒指導部	生徒指導課	1 「時を守り、場を清め、礼を正す」を生徒指導の基本に据え、嘉穂高生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒を育成する。 2 自立心と思いやりの心、逞しさを身に付けた生徒の育成に努める。 3 規範意識に優れ、自浄能力を持つ学校及び生徒の育成に努める。 4 生徒会を中心に学校行事の企画・運営を行い成功させる。	1 全校朝礼・始業式・終業式において国歌・校歌を斉唱させ、規律や礼節を重んじ、気高さや品位に満ちた態度を養う。生徒会役員を中心に潤陵祭・大運動会等の学校行事の質的向上と指導力の育成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員意識の向上を図り、学校の牽引者としての自覚を持たせ、学校を活性化させる。 ・校則等に対する規範意識が低下しつつある。特に携帯電話やマフラーの着用指導を徹底する。また、集会や式典、潤陵館でのマナーなど、HRや生徒会を通じて啓発し規範意識向上に努める。 ・問題行動に対する対応が後手に回らないよう、迅速な対応の徹底を図る。
			2 規範意識育成講演会・風紀検査・登校指導に全職員で定期的に取り組み、規範意識の向上・規範意識の向上に努める。	A	
			3 交通安全講話・自転車点検・駐輪場指導を実施し、登下校時のマナー(自転車マナー・送迎マナー等)の向上を図る。	A	
			4 学期に1回の部活動生集会を実施し、部活動や学校生活の在り方を振り返らせ、学校の牽引者としての意識を培う。	A	
	保健課	1 自己の健康状態を把握し、健康の保持増進を自ら確立できる生徒を育成する。 2 生徒の心の健康を図り、自己の健康管理意識の高揚を図る。 3 特別な教育的支援を必要とする生徒への支援を推進する。 4 美化活動をとおして、愛校心や公共物を大切に育む。	1 スクールカウンセラーによるカウンセリングを年に9回実施し、生徒・保護者の心の健康を図る。	A	
2 健康に関する相談事業を学校行事にあわせて適宜実施し、生徒の充実した学校生活をサポートする。			A		
3 特別な教育的支援を必要とする生徒に対して、あらゆる教育活動の場面で合理的配慮をするように努める。また、AEDの研修やアナフィラキシー補助治療剤アドレナリン自己注射薬エピペンの研修を行う。			B		
4 安全点検を全職員で各学期に1度行う。			A		
5 美化委員会と連携しながら、美化コンクールを通じた校内美化と、ゴミの減量化を推進する。			B		
進路指導部	進路指導課	1 社会や地域に対して常に貢献できる人材をつくり、希望進路に向けて努力する姿勢を育成する。 2 進路実現のための学力を身に付けることのできる生徒を育てる。 3 自他の人権や生命をしっかりと尊重し、積極的に行動できる生徒を育成する。	1 進路講演会や出前講義などのキャリア教育を実施することで、適切な進路情報の提供を行い、生徒や保護者の進路意識を高めていく。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・KDCでの創志セミナー、一日総合大学は、今後も進路と学年が連携して実施するようにする。 ・模試実施時期の検討、スタディーサポートの有効活用、外部検定試験の活用をさらに促す。 ・教育活動全体を通じて、コミュニケーション能力を高めるための活動を積極的に取り入れる。
			2 課外授業・土曜講座・模擬試験・英語資格試験を効果的かつ効率的に企画することで、生徒の第一志望への進学を増やす。	B	
			3 自他の人権を尊重する意識や態度を育成するため、年4回の人権教育授業やホームルーム活動を通して、生徒への働きかけを継続して行う。また職員研修の充実を図り、職員の人権感覚を高める。	A	
	情報課	1 パソコン教室の有効利用 2 普通教室でのICT機器の活用 3 校務用ネットワークの有効活用 4 学校HPの更新システムの刷新	1 パソコン教室の稼働率を高め、空き時間ができないように努める。	A	
2 普通教室でのパソコンやプロジェクタ等ICT機器を活用した授業を推進する。			A		
3 教材作成や校務に必要なソフトウェアや周辺機器を校務用パソコンで利用できるように整備を進める。			A		
4 本校のHPの更新を、職員だれもが適時に簡便にCMSを利用して行えるよう、システムを改善する。			B		
研修部	企画広報課	1 関係機関との連携を図りながら、校内における庶務全般を円滑に行う。 2 防災教育の推進を行う。 3 中学校等への広報活動計画を行い、実施する。 4 PTAを中心とした地域社会と良好な連携を強化し、幅広い教育を活用して、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成に寄与する。	1 職員の座席・ロッカー・戸棚、靴箱等の割り振りを行い、職員室の環境作りに努める。また、食堂への校時変更、行事の連絡、職員会議の記録など庶務全般を円滑に行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに庶務全般の業務を整えるためには年度末からの計画・作業が必要であり、職員室内の配置、ロッカーの整備など準備に早めに取りかかる必要がある。 ・防災避難訓練の実施内容を全職員で確認する場が必要であり、事務室との連携を取る。 ・体験入学について、実施時間帯、内容を再検討する。
			2 従来実施している避難訓練を再点検し、地震に対する避難訓練に加え防災非難訓練の充実を図る。また、防災マニュアルを周知徹底することにより実践的な自主防災活動を推進する。	B	
			3 中学生の体験入学、中学生進路相談事業の内容を充実させる。ポスター・カレンダーを作成し中学校、塾等の訪問を積極的に行う。	B	
			4 各委員会活動の活性化を図る。学校評議員会や学校関係者評価委員会をとおして、地域の声を取り入れ、学校教育に生かす。	A	
研修課	1 「気高さ」を有する生徒を育成するための指導力の向上を目指す。各分掌・学年と連携を図りながら、有意義かつ計画的な研修体制を確立する。 2 「力をつける授業」をキーワードにし、生徒・保護者・地域の進学実績向上を目指す。	1 校内研修(生徒指導・進路指導・授業研修等に関する研修)を年間4回実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修は、喫緊の課題に即する内容について実施する。 ・校外研修の参加を促すため、校内研修等の精選を図る。 ・「アクティブ・ラーニング」を用いた教授法の教員間での共有を積極的に図っていく。 ・他の分掌と情報共有を図る。 	
		2 指導力の向上を目指すため、校外での各種研修への参加を促す。そのため案内を密にする。	B		
		3 研究授業及び相互授業参観を通じて、教員間が切磋琢磨して授業力の向上を図ることができるようになる。	A		
		4 定期考査や校外模擬試験の結果をもとに各教科で学習定着度や教授法などの検証を行う成績分析会の実施率を100%とする。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
第1学年	1 嘉穂高生としての自覚と誇りを育成する。 2 自律型人間、即ち集団に貢献できる、他人に迷惑をかけない生徒を育成する。 3 文武両道の実践だけでなく、学校行事に積極的に参加する気構えを醸成する。	1 「場を清める」、ゴミが落ちていたら自然に捨てる態度を育成する。 2 「時を守る」、遅れると他人の時間を奪うことを知っている廉恥心の育成をする。 3 「礼を正す」、粗雑な「礼」を改め、丁寧な「礼」が出来る生徒を育成する。	B	B	・「場を清める」に関して5分前行動の実践は向上したが、「礼を正す」に関して、不十分な生徒が見られるので指導の徹底を図る。 ・清掃は美化コンクールの際は非常によく出来ているが、日常の清掃の不足分に対して日頃から徹底させたい。また、イスを入れる、窓を閉める等に個人差があり、今後継続的な指導が必要である。 ・学習時間が少ないので、学力向上のために一層努力させる。
		1 「人より先に」あいさつをする。気付きを促す。 2 呼ばれたら「はい」と返事をする。自制心の涵養する。 3 イスを入れる・クツを揃える・窓を閉める・戸を閉める。慎独(誰も見ていないところでも自ら律する)の姿勢を身につけさせる。	A		
		1 「学は人たる所以を学ぶなり」(吉田松陰)であり、学生の本分は学問である旨を徹底させる。 2 学習と部活動に偏りが生じないように留意する。 3 部活動未加入者の面談を適宜行い、加入率90%を目指す。	B		
第2学年	1 規律や礼節を重んじ、他者への思いやりと集団に寄与する姿勢を実践できる生徒の育成。 2 基本的な生活習慣を確立し、自律した生活が実践できる生徒の育成。 3 授業を中心に基礎学力の定着を図り自主学習を実践できる生徒の育成。 4 進路意識を高め、キャリアを積み上げ、進路実現のために素直な姿勢で努力する生徒の育成。 5 中堅学年・次代リーダーとしての自覚を培い、修学旅行を成功させる。	1 時間を厳守させ、授業や日常生活の中で、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなどを徹底させると共に、風紀検査や遅刻指導の事前事後指導を徹底させて指導対象者を昨年より半減させる。	B	A	・規範意識は高まったが、未だ欠席等が多い。日頃から辛抱強く取り組ませる指導を継続する。 ・クラス目標の月別評価会で生徒発表の場を設け、自治活動の機運が高まりつつある。学年全体にこの雰囲気を広げ、達成感を持たせることができるように取り組む。 ・教科課題等の提出状況は改善されつつあるが、授業中の集中力や主体的な学習という点で今後も指導する。 ・一日総合大学の貴重な体験を今後の進路実現へと繋げる。
		2 学年行事等で可能な限り生徒中心の運営等を行う場面をつくり、自治活動をより多く体験させる。また、男子集会・女子集会を行い、嘉穂高生としての誇りを培い、次代リーダーを育成・発掘する。	A		
		3 学年団の共通認識のもと、授業規律を徹底させて集中力を高める授業を展開する。また、より自主的な考前学習を展開させるため、課題の工夫や質問コーナー設置等の対策を考える。	A		
		4 学部学科研究、オープンキャンパス、一日総合大学等の取り組みを充実させ、進路意識を高めると共に、様々な研修やボランティア活動等に積極的に参加させ、キャリアを積ませる。	A		
		5 学部学科研究、オープンキャンパス、一日総合大学等の取り組みを充実させ、進路意識を高めると共に、様々な研修やボランティア活動等に積極的に参加させ、キャリアを積ませる。	A		
第3学年	1 進路実現に向け、最後まで諦めずに努力する生徒を育成する。 2 行事に全力で取り組み、今までに培った「力」を存分に発揮させる。 3 社会性を備えた、澁刺とした生徒を育成する。	1 授業はもとより、朝課外・放課後課外・長期休業中の課外を充実させる。生徒の学力向上に向けてあらゆる手段を講じる。	A	A	・潤陵祭・大運動会では、最上級生としてのあるべき姿をしっかりと示す事ができた。大運動会後の切り替えも概ね良好であった。 ・12月からは、特別授業の復習を徹底させることで着実に学力を付けてきている。次年度以降もこの方向で良い。一方、推薦入試に向けての指導については系統だった指導体制が求められる。全体の雰囲気としては、進路実現に向けて諦めずに努力する姿勢が感じられるので、今後は自主性を誘発するような声かけや指導を行うようにする。
		2 授業の予習・復習や模擬試験のやり直し等の生徒の自発的な学習を促し、学校を中心とした学習スタイルを確立させる。	A		
		3 国公立大学の推薦入試に対する調査・研究と指導方法の検討を入念に行い、今まで以上に手厚く指導する。	B		
		4 伝統の継承者である事や最上級生としての責任の重さを理解させる。学校行事に全力で取り組ませることによって、帰属意識を高め、母校愛の涵養に努める。	A		
		5 受験生(社会人)として恥ずかしくない言葉遣いの指導を徹底するとともに、色々な場面で思いやりの心を育てる指導を行う。	A		
		6 本年度も人間関係を構築するための援助(グループエンカウンター)を行う。また、ストレスマネジメント等の指導を行い、不安定な受験期を心身ともに健やかに過ごせるよう配慮する。	B		
理数科	1 第一希望進路を維持させ、その実現を図る。	1 所属する学年全体を牽引する役割を担う集団であることを確実に意識付け、他校の理数科との交流を深めたり、生徒の実態に即した外部講師による講演会を聴講させるなどにより、生活習慣の改善を図ると共に学力の伸長を促進する。	A	A	・課題研究の取り組みを充実させる必要がある。また、その内容及び結果について外部に発信できるレベルに引き上げなければならない。
		2 クラス及び学年全体をリードする素質のある生徒を早期に見出し、育て、それらの生徒を軸にクラス及び学年全体の意欲・学力の向上を図る。	A		
嘉穂 Dream Compass	1 将来、世界の発展に貢献しようとする志を持った生徒を育成する。 2 中学と連携して、6年間のキャリア教育及び進路指導のあり方を確立する。 3 SSH事業の成果を新事業「嘉穂 Dream Compass」に引き継ぐ。	1 中高6年間を見通した体系的なキャリア教育の詳細な計画を作成し、実施する。	A	A	・附属中学生及び高校71期生を対象に新事業「嘉穂 Dream Compass」をスタートさせた。年度ごとに新しいプログラムが入ってくるので、内容を協議しながら円滑に実施できる体制を整える。 ・高校2年時に実施する課題研究「未来設計」の詳細な内容を生徒に提示し、意欲を持って取り組めるシステムを構築する。
		2 SSH事業(経過措置)と「嘉穂 Dream Compass」の業務分担を調整し、スムーズに実施できるシステムを構築する。	B		
		3 総合的な学習の時間の柱となる「創志セミナー(1年生)」「一日総合大学(2年生)」が、生徒の進路選択に直結するよう内容や実施時期等を検討する。	A		
		4 71期生が2年次に行う修学旅行の研修プログラムを決定し、充実した内容になるよう準備を進める。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
武道・日本文化コース	1 我が国の伝統や文化を理解させる。 2 学力・競技力で高い志を持たせる。 3 武道・日本文化コースの生徒に相応した「気高さ」を持つ生徒を育成する。 4 国際社会の一員としての資質やコミュニケーション能力を育成する。 5 進路希望実現を図る。	1 我が国の伝統や文化を理解するために、学校設定科目を学習させ、特に「日本文化実習」の充実を図る。	A	A	・規範意識の向上、嘉徳高校生としての意識向上に更に取り組む。 ・評価については、職員間の共通理解を求め、特に、習熟度別授業における確認を徹底する。 ・新入生オリエンテーション・集会・講演会の内容を充実させる。 ・進路意識を高めさせるために、キャリア教育を行っていく。 ・武道・日本文化コースの特色を出した行事を実施する。
		2 習熟度別授業を取り入れ、生徒の学習モチベーションを高めるとともに、個に応じた指導の充実を図り結果を出す。	A		
		3 武道・日本文化コース集会を通して、規範意識を持たせ、コースの中から学年および学校の核となる生徒を育成する。	A		
		4 学校行事に積極的に参加させ、コミュニケーション能力を育成する。また、講演を実施し、生徒の資質向上を図る。	B		
		5 卒業生による進路講演を行うなど進路実現に向けた指導を行う。推薦で進路を決定する生徒が多いので、評価については、一年次から職員間の意思統一を図る。	B		
確かな学力の育成	1 週33単位時間授業を効果的に行い、観点別学習状況の評価及び言語活動の視点を取り入れた授業を実施する。 2 評価規準を明確にし、指導と評価の一体化に学校全体として取り組む。 3 生徒の自主的な学習意欲の向上及教員の教科指導力をさらに向上させる。 4 現役での国公立大学合格者120名以上、難関大学30名以上を実現する。	1 学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容、国立教育政策所が示した「評価規準作成、評価方法の工夫改善」を参考に評価規準の設定に取り組む。また、評価規準の設定を含めた指導と評価の計画、具体的な評価方法等について研究を行う。	B	A	・現学習指導要領の完全実施を経て、本校の実態と目標に沿ったものを各教科で再検討し、全職員で共有する。 ・定期考査・実力考査の問題精査や生徒の学習に対する取り組みの改善を通して確かな学力の育成に努める。 ・相互授業参観や校外公開授業への積極的な参加を呼びかけ、さらなる授業の研鑽を推奨する。
		2 生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図る。	A		
		3 相互授業参観や生徒による授業評価を積極的に活用し、教員の意識改革に取り組み、指導力の向上に努める。	A		
		4 学校全体が組織として、生徒の第一進路希望の実現に向け取り組めるよう、各分掌や学年が機能的に連携できるよう改革を促す。	A		
いじめの撲滅	1 全教職員がいじめの発生についての危機意識を持ち、学校全体で問題に取り組む。 2 教育活動全体を通じて、いじめは絶対に許されない行為であることを生徒に認識させる。 3 家庭や地域、関係諸機関と連携を図り、「いじめ問題」の早期発見・早期対応に努める。 4 日頃から「いじめ問題」を防止する教育活動に努める。	1 携帯電話・インターネットを介したいじめ問題や非行防止に関する講演会等を行うとともに、職員研修を通して、学校全体で「いじめ問題」に対する理解を深め、その対応の共通理解を図る。	A	A	・いじめ防止基本方針をもとにした職員研修をできれば4月に行い、内容を全職員に徹底する。 ・いじめアンケート・学校生活アンケートの調査結果を担当・学年主任・生徒指導主事で共有し、早期対応を協議し、実行する。 ・SNSを介したいじめが発生しないよう、学年集会や生徒指導便り等を通じて生徒の規範意識の向上を図る。
		2 学校生活アンケート(年12回)及び家庭用チェックリスト(年2回)の結果を職員で共有し、生徒からのいじめのサインを早期に発見して適切な対策を講じる。また、特別な教育的支援を必要とする生徒のサインも早期に発見し、教育活動において合理的配慮をするように努める。	A		
		3 「いじめ問題対策委員会」を開き、「いじめ」に対する緊急の対応及び中・長期的な対応を検討し、実行する。	A		
		4 人権・同和に関するHR活動や規範意識を高める教育活動を通して、「いじめ」に対する認識を深め、被害者、加害者、傍観者の立場から生徒に考えさせる。	A		